

卒業式 集合写真

2022年3月22日



看護学科 教員 & 事務職員 紹介

解剖学 嵯峨 教授	内科学 綾部 教授	母性看護学 後列左から: 永田助教・岡村助教 前列左から: 跡上准教授・加藤准教授・田中教授・南條助教	老年看護学 左から: 草場講師・古村教授・新助教
小児看護学 左から: 藤好講師・水落助教・益守教授	精神看護学 左から: 福浦講師・舞弓准教授・松島助教	在宅看護学 左から: 森永助教・渡邊講師 山下助教	事務職員 後列左から: 山下課長補佐・長田係長・堀内課長・藤竹係員 前列左から: 田中係員・藤山係員
地域看護学 左から: 小島助教・梶准教授・佐藤准教授・竹下助手・重松教授	基礎看護学 左から: 三次助教・加悦准教授・森本教授・前野講師・山田助教	成人看護学 左から: 孫田講師・桐明准教授・原教授・石橋助教 池上助教・三橋教授・姫野講師・河原田講師	

祝

2021年度
看護師・保健師国家試験 **合格率100%**
看護師学校別合格者数 **全国第6位**

第111回 看護師	本学 新卒・既卒者合格率 100% 全国合格率 91.3%
第108回 保健師	本学 新卒・既卒者合格率 100% 全国合格率 89.3%

寄付のお願い

「久留米大学医学部看護学科教育研究振興資金」への寄付のお願い

2021年3月から、看護学教育の充実・振興を目的とした「久留米大学医学部看護学科教育研究振興資金」を創設しました。皆様からのご支援により更なる看護学科の教育の充実を図りたいと考えております。

詳しくは本学HPをご覧ください。また、ご寄付は税制上の優遇措置(寄付金控除)の対象となっております。

久留米大学医学部看護学科教育研究振興資金へ、皆さまからの温かいご支援をお待ちしております。

寄付金額 1口 1万円 1口以上

問合せ先 久留米大学医学部事務部 看護学科事務室
電話 0942-31-7714

編集後記

はなみずき59号をご覧いただきありがとうございました。皆様からのご協力をいただき、今回も無事にはなみずきを発行することができました。まだまだ、新型コロナウイルス感染症の予防対策をしながらの学校生活ではありますが、はなみずきを通して、充実した学生生活を送れていることを知っていただけたら嬉しいです。また、新入生の皆さんは、看護学科での生活をイメージできましたか? 新たな学校生活を共に頑張らしましょう。今後とも良いはなみずきをお届けできるような頑張ります。

2021年度 学科通信委員

2年生 窪山 日菜 坂田 菜夏 中島 かりん	3年生 及川 千穂 田中 涼佳 松藤 涼香	4年生 岸田 龍世 桐村 明莉 末吉 友香	2021年度 卒業生 清水 吾衣 高田 智佳 町川 美羽
-------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	---

看護学科通信

はなみずき 第59号

Kurume University School of Nursing
777-1, Higashi-kushihara, Kurume City 830-0003 Japan
Tel.0942-31-7714 Fax.0942-31-7715



インド・ミテイラー地方の民族画「スーリヤムッキーの木」



看護学科長 三橋 睦子

人を幸せにする看護を学ぶ

ようこそ久留米大学医学部看護学科へ
29回生119名の皆さん、ご入学おめでとうございます。新型コロナウイルスの感染拡大は今だに収束の兆しが見えず、世界を見れば戦争や貧困、日本でも地震や水害の発災があり、生きることが困難な時代ですが、昨年25回生の先輩方が、看護師・保健師、助産師の新卒者・既卒者併せて全員合格され、さらに、合格者数全国第6位という快挙を成し遂げられました。さあ、皆さん達がこの伝統を継承し、人として、医療者として、看護者として一流になるべく「人を幸せにする看護」を愚直に謙虚に学ばれますことを切望します。



教務委員長 森本 紀巳子

学び、修めることを楽しむ日々!

ご入学おめでとうございます。皆さんは、看護師、保健師あるいは助産師になる「夢」をもって大学に入学されたと思います。その「夢」を実現するために、活発な学生生活を送られることを願っております。また、皆さんの輝かしい未来は、毎日の学習の積み重ねが実を結ぶものだと思います。大学は学びの場であることを自覚し、特に1・2年次の科目は、以後の学修に大きく影響しますので、毎回の授業が学ぶ楽しさを感じられる有意義な時間になるよう努めてください。大学での幅広い学びを生かし、看護学の基礎的知識・技術・態度を身につけ、様々な側面から患者に寄り添うことができる心豊かな看護者へと成長されることを期待しております。

1年生担任 ご挨拶

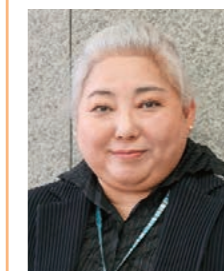
1年生クラス担任 嵯峨 堅 担任補佐 永田 真理子

令和4年度の新入生の皆様、御入学おめでとうございます。桜の咲く、穏やかな天候に恵まれ、素晴らしい入学式となりました。看護学科だけの開催でしたが、ご父兄の方々にもご参加いただき、皆さまの晴れの姿をご覧いただけたものと思います。



担任: 嵯峨 堅先生 担任補佐: 永田 真理子先生

どうぞ、4年間の貴重な時を、大学の仲間とともに、有意義に過ごし、楽しく勉学に励まれることを願っております。



学生委員長 益守 かづき

看護職を目指す仲間とともに

新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。久留米大学医学部看護学科では、皆さまを心より歓迎いたします。

新型コロナウイルス感染症に影響される生活を強いられ、高校生活はどのように過ごされましたか。皆さんをお迎える大学も、オンデマンド講義になったり、臨地での実習が学内実習に変更になったり、感染拡大状況に左右されました。しかし、その過程で、様々な方略も獲得しました。新入生の皆さまも、自分や周囲の方々の生活に関心を向け、困難だったことだけではなく、たくさんの知恵を思い出してください。経験したことを自分自身の学びにすることは、主体的な学びの一步になります。また、看護専門職を目指す仲間と歩むことで、充実した4年間になることでしょう。



令和4年度 新入生集合写真

新 2年生

部活動～バドミントン部～



S.A

私はバドミントン部に所属しています。昨年は、新型コロナウイルスの影響で9月から部活動が再開されました。バドミントン部は1年生10人、2年生5人、3年生4人の19人で火、木、金の週3回活動しています。初めは上手く馴染んで活動できるか不安でいっぱいでしたが、先輩方が温かい雰囲気迎え入れてくださったおかげで、今は共に切磋琢磨し楽しく活動を行うことができ、充実した日々を送っています。新型コロナウイルスの影響により、例年開催されていた試合や練習試合が中止となっていました。関係してくださる方々に感謝の気持ちを忘れず、またいつか試合が再開された時に向けて日々練習に励みたいと思います。

生活援助技術Ⅱを通して

S.Y

生活援助技術Ⅱでは食事の援助、口腔ケア、排泄の援助、バイタルサイン測定などを学びました。口腔ケアは、COVID-19の感染予防対策を行って歯の模型に対して援助を実施し、食事の援助では事例患者の食事の献立や食事の援助を考えました。バイタルサイン測定では学生同士で意識レベル、呼吸、脈拍、血圧測定を実施しました。コロナ禍で創意工夫された演習内容で患者役も体験し、何か行う前には声をかけることの重要性を感じました。これから、病院実習も始まり、これまでに学習したことを実習の場面で活かして頑張りたいと思います。



保健師交流会に参加して

K.S

私は、以前から看護師の仕事と共に保健師の仕事について興味があり今回この交流会へ参加しました。先輩方から、保健師の魅力や活動内容、学生時代の過ごし方など様々なことを拝聴し、保健師の活動は講義でも学んでいる最中でしたので交流会での内容と交えながら学びを深めていくことが出来ました。グループ懇談では、先輩とより楽しみながら保健師に必要なスキルや実習についてのアドバイスを聞くことができ、貴重な体験をさせていただきました。先輩方から学んだことを活かしながらも勉学に励んでいきます。次回もこのような機会があればぜひ参加したいと思っています。



生活援助実習Ⅱを終えて

T.R

私達は、12月に2週間の生活援助実習Ⅱへ行かせて頂きました。今回、受け持ち患者さんの問題を見つけ、日常生活援助を実践することを目指していましたが、はじめて患者さんを受け持たせて頂いたこともあり戸惑うことが多くありました。特に、コミュニケーションを通して患者さんの情報を得ることに難しさを感じました。どのようにして話を展開していけばいいかわからず、緊張で言葉が詰まり、患者さんの訴えを読み取ることが難しかったのですが、指導者さんに指導して頂きながら援助を行うことができました。私は、今回の実習で自分の持っている知識を実践することの難しさを痛感しました。3年生では今回の反省を踏まえて、さらに学びを深め患者さんに寄り添う看護をしていきたいと思っています。



CPR (心肺蘇生法) 演習を通して

H.M

療養生活支援Ⅰの演習でCPR(心肺蘇生法)を学びました。演習では、教員の指導のもと、傷病者発見から救急隊に引き継ぐまでの一連の流れを実際に1人ずつ行いました。グループメンバーや担当教員と胸骨圧迫部位の正しい位置やリズム、深さ、AEDの手技、声かけ等を何度も確認し、練習を行うことができました。さらに、新型コロナウイルス感染症によって、今まで学習してきたことと異なり新しく変わっていたこともあり、知識、技術の再確認と新たな知識を学ぶ重要な機会となりました。もし今後、救命措置を行う場面に遭遇した際には、躊躇せず自ら積極的に焦らず正確な行動がとれるように、これからも定期的に復習し、正しい知識と技術を身につけていきたいと強く感じました。



レピーフ活動

O.C

今回、私たちは中学生に向けて、性教育を行いました。レピーフ活動自体は長年行われていますが、今回のメンバーは全員が初めて行う活動だったため、中学生にどのような私たちの思いが伝わるのかを皆で考え、当日まで意見を出し合いながら準備を進めていきました。今回のテーマは「お互いを理解し合うって?～違いを受け入れ良い関係を築くためには～」でした。グループワークでは中学生と意見を出し合うなかで、「お互いを理解し合う」という意味を改めて考えることができました。また、行動だけで気持ちを表現するのではなく、言葉にして伝えることの大切さを私自身も再確認するきっかけとなりました。今回の活動を通して学んだことを、今後のレピーフの活動や自分自身の大学生活に繋げていきたいと思っています。



療養生活支援実習Ⅲを通して



K.C

私は療養生活支援実習Ⅲの実習を通して、患者さんが不安などの思いを表出できるような環境を作る為には、信頼関係の構築や会話の中で「待つ」という姿勢が重要であることを改めて学びました。精神疾患における症状は不安の増減に左右します。そのため、少しでも不安を表出し症状を軽減できるよう、患者さんの自然な言葉の表出をゆっくり待つという関わり方を実践を通して学ぶことができました。これは様々な対象者とのコミュニケーションや看護において共通する大切なことであると思ったため、今後のケアに活かしていきたいです。

在宅生活支援実習で学んだこと

Y.M

私は在宅生活支援実習を通して、療養者さんの家にある物品を用いて、工夫をしながら支援することの必要性を学びました。印象に残っているのは、陰部洗浄のケアの場面です。できる限り使用する水の量を減らすために、ティッシュペーパーである程度泡を取ってから水で流す工夫をされていました。在宅では、療養者さんのご自宅にある物で援助を行うので、物品を使用する前に声掛けをするなどの配慮も必要であると学びました。今後この経験を活かしながら患者さんにより良い看護を提供できるよう頑張りたいです。



療養生活支援実習Ⅱで学んだこと

S.K

療養生活支援実習Ⅱの実習では、病態だけでなく患者さんが目標とする退院後の姿を意識した関わりを入院早期から行うことが重要であると学ぶことができました。また、セルフケア能力向上のために患者さんの自立度を正確に把握し、自分でできることは行ってもらうことなど、退院後の生活を見据えた個別性のある看護が必要であると感じました。退院後の切れ目の無い医療のためには、多職種で日々の情報を共有し、個々の患者さんに合わせた最善の医療を提供するチーム医療が欠かせないのだということが分かり、この視点を大切に今後のケアに活かしていきたいと思いました。



成長できた4年間

M.A

私はこの4年間で自分の意見を伝える力を身に付けることができたと思います。グループワークやカンファレンスでは自分に意見を持ち積極的に発言することを心掛けました。また自分の意見を伝えるだけでなく他者の意見を聞くことで、自分の看護観を広げることにつながったと思います。また、伝える力は養うことができたと思いますが、自分の意見を簡潔明瞭に伝えることに対して苦手意識があるため、これからはそれを課題としていきたいと思っています。最後に、これまでさまざまな困難がありながらもたくさんの人に助けをもらいながら4年間乗り越えてきました。私を支えてくれた母、友達、先生など多くの人に感謝の気持ちを伝えたいです。



総合演習を終えて

K.M

総合演習では、輸液管理、鼻腔内・気管内の吸引の実技演習を行いました。臨床に必要な看護技術なので、学生のうちに技術を身に付けられたことで大きな自信につながりました。また、看護過程ではこれまでの知識・実習での経験を活かして、病態を踏まえながら患者さんの生活を想像し、アセスメント・個別性のある看護を考えることができました。国家試験の勉強につながり、知識の整理にもなりました。この総合演習だけでなく、これまでの実習や演習で身につけたことを臨床に出た際に最大限に活かし、自分の目標とする看護師に一歩でも近づけるように頑張りたいと思います。



新 4年生

O.N

私は「看護学生の自己効力感と実習中の楽しさの経験の関連」というテーマで卒業研究を行いました。私自身、臨地実習を終えて、実習の楽しさを知ったと同時に自己効力感が向上したように感じたためこのテーマに関して深く掘り下げていきたいと思いました。最初は研究というものがどういふものなのかから不安もありました。しかし、卒業論文の発表を終えて、自分が疑問に思ったことを深く掘り下げていくことはとても面白いなと感じています。また、卒業論文発表会では他学生の発表を聞き、自分の知らなかったことを新たに知ることができ看護研究の面白さをさらに感じました。看護師になった際にも、看護研究を行う際には今回の経験を活かして取り組んでいきたいと思っています。



卒業論文発表を終えて

O.N

2021年度 卒業生

